PC-9800シリーズ
日本語MS-DOS（Ver 5.0）
基本機能セット

補足説明書

本補足説明書では、日本語MS-DOS（Ver 5.0）を使用する際の注意事項を記載していますので、必ずお読みください。

091193-287-005

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を、無断で他に転載することは禁止されています。

(2) 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。

(3) 本書の内容は、万全を記して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。

(4) 運用した結果の影響については、(3)項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェア）は、日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。

本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

はじめに

本補足説明書では，『日本語 MS-DOS（Ver 5.0） 基本機能セット』に同梱されているマニュアルに加え、さらに解説が必要と思われる機能について記述しております。

また、日本語 MS-DOS（Ver 5.0）を使用する際の注意事項も記述しておりますので、必ずお読みください。

【本製品ご使用にあたっての注意事項】

- 市販のソフトウェアの中には、使用する日本語MS-DOSのバージョンを限定しているものがありますのでご注意ください。
- 『基本機能セット』のディスクはファイルが圧縮されているため、そのままでは利用できません。ご利用の際は「インストールガイド」に従って運用ディスクを作成してください。
- プロテクトのかかったソフトウェア、システムの情報を直接参照しているソフトウェア、EMS/XMS機能以外の方法で拡張メモリを使用しているソフトウェア等は一部動作不良を起こすものがあります。
- 日本語MS-DOS（Ver 5.0）の機能拡張にともない、各コマンドなどのファイル容量が増加していますので、フロッピィディスクへのインストールの際はご注意ください。（フロッピィディスクにインストールした場合、運用媒体は4枚になります。）
- V30、8086CPU搭載機（PC-98LT、HAを除く）や本体内メモリが640キロバイトの機種で使用した場合、ユーザーズメモリが日本語MS-DOS（Ver 3.3C）と比べて約15キロバイト減少します。
- アプリケーションをご使用の際にメモリが不足する場合は、DOSシェルやDOSKEY等のコマンドをはずしてください。
- PC-H98シリーズでご利用できるユーザー定義文字は、全角文字219文字のみです。
- PC-H98シリーズで利用可能なメモリ容量は、最大14.6メガバイトです。

目　　次

1．他のOS製品との関係

MS-DOS 3.3xからMS-DOS 5.0に移行する場合や、MS-DOS 5.0上でMS-WIN-DOWSをご使用になる場合は、次のことにご注意ください。

(1) MS-DOS 3.3xからの移行

MS-DOS 3.3xからMS-DOS 5.0に移行する場合は次の手順でインストールを行ってください。

① 本補足説明書と同梱されている「インストールガイド」に従って、MS-DOS 5.0をMS-DOS 3.3xの入っているドライブにインストールします。

② MS-DOS 5.0のインストール時に作成された新しいCONFIG.SYSファイルはMS-DOS 3.3xの運用時のCONFIG.SYSファイル（CONFIG.OLDにリネームされています）を考慮して作成されていますが、環境によっては正常に動作しない場合があるため、MS-DOS 3.3x運用時のCONFIG.SYSファイルを参考にして追加／削除をおこないます。

また、ADDDRVコマンドで指定するデバイスドライバ定義ファイルもMS-DOS 5.0のデバイスドライバを使用するように修正する必要があります。

注意 MS-DOS 3.3xと5.0で同名または同機能のデバイスドライバは、必ずMS-DOS 5.0のデバイスドライバを使用するように設定してください。

③ MS-DOS 3.3xでアプリケーションプログラムをメニューに登録してご使用になっていた場合は、登録していたメニューファイル（xxxx.MNU）をMENUCONVコマンドを使ってDOSシェルに登録します。

【書式】

MENUCONV ［ドライブ：］[パス]ファイル名１ [[ドライブ：][パス]ファイル名２]

ファイル名１：変換元のメニューファイル名を指定します。

ファイル名２：変換先の DOS シェル用 INI ファイル名を指定します。
（ファイル名２を省略した場合は DOS シェルのメニューが記述される“DOSSHELL.INI”に変換します.）

【使用例】

次の例では、MS-DOS 3.3x で使用していたメニューの内容を DOS シェルに登録します。

なお、メニューの内容が登録されている AP.MNU ファイルがＡドライブのディレクトリ¥AP にあり、ディレクトリ¥DOS に MS-DOS 5.0 がインストールされているものとして説明します。

また、⏎はリターンキーの入力を表し、____（アンダーライン）は入力データを表します。

```
MENUCONV A：¥AP¥AP.MNU A：¥DOS¥DOSSHELL.INI⏎
```

MENUCONV コマンドのメッセージに従って操作し、MENUCONV コマンドが終了すると DOS シェルへの登録は終了です。

注意
1．「メニューの終了」の項目は DOS シェルには登録できません。
2．メニュータイトル、メニュー項目名が半角文字で23文字（全角11文字）を超える場合は DOS シェルに登録する際に半角23文字（全角11文字）を超えた部分が切り捨てられます。
3．DOS シェルのメニューを記述するファイル（DOSSHELL.INI）を直接エディタで編集する場合は、”[programstarter]” と ”group =” の記述は、削除しないでください。削除した場合は、MENUCONV コマンドによる登録はできません。

(2) MS-WINDOWS(Ver 3.0)を使う際の注意

MS-DOS 5.0 上で MS-WINDOWS(Ver 3.0)をご使用になる場合は、次のことにご

注意ください。

① 以下のデバイスドライバは、MS-DOS 5.0 に添付のデバイスドライバを使用してください。

1. HIMEM.SYS
2. SMARTDRV.SYS
3. RAMDISK.SYS
4. EMM386.SYS（MS-DOS 5.0 では EMM386.EXE となります.）

注意 MS-WINDOWS(Ver 3.0)が先にインストールされている場合は、MS-DOS 5.0 のインストール時に CONFIG.SYS ファイルが更新され、MS-DOS 5.0 に添付のデバイスドライバが設定されます。

② MS-WINDOWS(Ver 3.0)のかな漢字変換で〈AI かな漢字変換（MSKANJI.EXE)〉を使用する場合は、MS-DOS 5.0 に添付のかな漢字変換ドライバを使用してください。

かな漢字変換ドライバの変更は、CONFIG.SYS ファイルまたは WINSTART.BAT ファイルの ADDDRV コマンドで指定するデバイスドライバ定義ファイルを修正する必要があります。

【修正例】

・CONFIG.SYS ファイルまたはデバイスドライバ定義ファイルを修正する。

修正前

```
        :
DEVICE = A: ¥WINDOWS¥NECAIK1.DRV
DEVICE = A: ¥WINDOWS¥NECAIK2.DRV
        :
```

修正後

```
        :
DEVICE = A: ¥DOS¥NECAIK1.DRV
DEVICE = A: ¥DOS¥NECAIK2.DRV
        :
```

(3) MS-WINDOWS(Ver 3.0A)を使う際の注意

MS-DOS 5.0 上で MS-WINDOWS(Ver 3.0A)をご使用になる場合は、次のことにご注意ください。

① すでに MS-WINDOWS (Ver 3.0A) がインストールされているシステムに MS-DOS 5.0 をインストールする場合は、MS-DOS 5.0 のインストールに作成された CONFIG.SYS ファイルをそのままご使用ください。

また、ADDDRV コマンドで指定するデバイスドライバ定義ファイルは、MS-DOS 5.0 にあわせて修正する必要があります。

注意 同名または同機能のデバイスドライバは、必ず MS-DOS 5.0 のデバイスドライバを使用するように設定してください。

② 先に MS-DOS 5.0 がインストールされている場合は、そのまま MS-WINDOWS (Ver 3.0A)をインストールしてください。

(4) MS-DOS 5.0 から 3.3x に移行する際の注意

MS-DOS 5.0 がインストールされているドライブに MS-DOS 3.3x を再インストールすることはできません。

再インストールする場合は、MS-DOS 5.0 の FORMAT コマンドで領域解放してから MS-DOS 3.3x をインストールする必要があります。

注意
1. 重要なファイルは、領域解放を行なう前に必ず COPY コマンド等でバックアップしてください。
2. MS-DOS 3.3x の SYS コマンドで MS-DOS 5.0 のドライブにシステムファイルを転送することはできません。
3. MS-DOS 5.0 上で MS-DOS 3.3x のコマンドを実行することはできません。

2．MS-DOS を起動するディスクドライブの設定

MS-DOS 5.0 では、MS-DOS を起動するディスクドライブの設定方法が MS-DOS 3.3x から変更されていますので次のことにご注意ください。

(1) 自動起動の設定

ノーマルモードで、固定ディスクから固定ディスク起動メニューを経由せずに自動起動させるための操作方法を次のように変更しました。

従　来

1．固定ディスク起動メニュープログラムで「自動起動の設定」をする。
2．SWITCH コマンドで「起動装置＝HD」にする。
　(DIP SW の 2-5 を ON)

変更後

1．固定ディスク起動メニュープログラムで「自動起動の設定」をする。
　(SWITCH コマンドの実行を不用にしました。)

(2) 固定ディスク起動メニュープログラムの起動

ノーマルモードで自動起動の設定を行った場合に、固定ディスク起動メニュープログラムを起動するためには TAB キーを押しながら電源をオンにします。

注意 (1) ハイレゾモードは従来の操作方法から変更されていません。
(2) 2 台以上の固定ディスクをご使用の場合に、2 台目以降の固定ディスクに MS-DOS 5.0 をインストールした場合は、従来の方式から変更されません。

※ 詳しくは、インストールガイドの『2.5　ディスクドライブを増設するには』の『MS-DOS を起動するディスクドライブの設定』をご参照ください。

3．MS-DOS 5.0 に未対応の FEP を使う＿＿KKCSAV.SYS

MS-DOS 5.0 では、MS-DOS 3.3x で使用していた日本語 FEP（Front End Processor）が、そのまま動作しない場合があります。

このため、MS-DOS 5.0 では日本語入力をサポートする日本語 FEP のうち MS-DOS 5.0 に未対応のものを動作させるデバイスドライバとして KKCSAV.SYS をサポートしています。

MS-DOS 5.0 に未対応の日本語 FEP を使用する場合は、CONFIG.SYS ファイルまたはデバイスドライバ定義ファイルを次のように修正してください。

【修正例】

・CONFIG.SYS ファイルまたはデバイスドライバ定義ファイルを修正する。

修正前

```
:
DEVICE =[使用する日本語 FEP の指定]
:
```

修正後

```
:
DEVICE =[ドライブ名］［パス］KKCSAV.SYS
DEVICE =[使用する日本語 FEP の指定]
:
```

注意

1．KKCSAV.SYS は、必ず使用する日本語 FEP よりも前に指定してください。
2．複数の日本語 FEP を組み込んで使用することはできません。
3．使用する日本語 FEP によっては、KKCSAV.SYS を組み込んでも使用できない場合がありますので、ご注意ください。
4．SETVER コマンドと KKCSAV.SYS の両方を使用する必要のある日本語 FEP もありますのでご注意ください。

4．3.5インチ光ディスク

MS-DOS 5.0 では、3.5インチ光ディスクをサポートしています。

3.5インチ光ディスクは、フロッピィディスクと同様に扱うことができます。

ユニットの種類	最大ユニット数	最大ドライブ数	ディスクの大きさ
3.5インチ光ディスク	2	2	3.5インチ

注意

1．3.5インチ光ディスクでは固定ディスクのように領域を分割して使用することはできません。

2．INSTDOS、FORMAT、DISKCOPY コマンドでは3.5インチ光ディスク装置が接続されている場合にのみメニューに表示します。

3．SCSI のインターフェースに接続する周辺機器は、SCSI の ID が連続していなくてはなりません。

(1) MS-DOS の起動

3.5インチ光ディスクを接続した環境で MS-DOS 5.0 を起動する場合、以下の順序でドライブを検索します。

● ノーマルモードでの起動

ノーマルモードで、本体が出荷時の初期状態（「起動装置＝標準」時で自動起動の設定がされていない状態）の場合、次の順序でディスクドライブを検索し最初に見つかった起動可能なドライブからシステムを起動します。

640K バイトタイプのフロッピィディスクドライブ

↓

1M バイトタイプのフロッピィディスクドライブ

↓

3.5インチ光ディスクドライブ、光ディスクドライブ

(SCSIのIDの小さなものから検索します)

↓

固定ディスクドライブ

●ハイレゾモードでの起動

ハイレゾモードではCTRLキーを押しながら電源をオンにすると次の順序でディスクドライブを検索します。

3.5インチ光ディスクドライブ、光ディスクドライブ

(SCSIのIDの小さなものから検索します)

↓

フロッピィディスクディスクドライブ

(2) ドライブ名の割り当て

3.5インチ光ディスクドライブが接続されている場合にMS-DOSで使用するドライブ名の割り当ては次のとおりです。

起動ドライブの種類	割り当て順序 (A：、B：、……)
640KB FD	640KB FD→1MB FD →HD →SCSI HD →OD →3.5 OD
1MB FD	1MB FD →640KB FD→HD →SCSI HD →OD →3.5 OD
3.5 OD	3.5 OD →640KB FD→1MB FD →HD →SCSI HD→OD
HD	HD →SCSI HD →OD →640KB FD→1MB FD →3.5 OD
SCSI HD	HD →SCSI HD →OD →640KB FD→1MB FD →3.5 OD
OD	OD →HD →SCSI HD→640KB FD→1MB FD →3.5 OD

640KB FD：640Kバイトタイプフロッピィディスク

1MB FD　：1Mバイトタイプフロッピィディスク

3.5 OD　：3.5インチ光ディスク

HD　　　：固定ディスク

SCSI HD ：SCSIインターフェースによる固定ディスク

OD　　　：光ディスク

5．DOSシェルを使用する際の注意

(1) DOSシェルをタスク・スワップ・オンで使用する場合の注意

DOSシェルをタスク・スワップ・オンでご使用になる場合は、次のことにご注意ください。

① DOSシェル上でタスク・スワップ・オンの状態でグラフ画面を使用するアプリケーションプログラムを実行する場合は、グラフ画面を使用するアプリケーションプログラムを以下の手順で「プログラムリスト」に登録してください。

【登録方法】

1．メニューバーの「ファイル」を選択します。
2．プルダウンメニューから「新規登録」を選択します。
3．「プログラムを登録する」を選択します。
4．「プログラム・タイトル」、「コマンド」等、必要な登録情報を入力欄に入力します。
5．次に「その他.....」を選択し、次のダイアログボックスを表示します。
6．ビデオ・モードを「グラフィックス」に設定し、「了解」を選択します。

注意 (1) ビデオ・モードが「グラフィックス」で登録されていない場合は、タスク・スワップの際にグラフ画面の情報が退避されませんので、再度アプリケーションプログラムに切り替えた際に、正しくアプリケーションプログラムの画面を表示することができなくなります。

(2) ご使用になるアプリケーションプログラムによっては、ビデオ・モードを「グラフィックス」で登録しても、アプリケーションプログラムを切り替えた際に、画面表示が乱れる場合があります。

② DOSシェル上のコマンドプロンプトからグラフ画面を使用するアプリケーションプログラムを起動する際には、コマンドプロンプトがグラフモードで起動されている必要があります。

①のと同じ手順で「プログラムリスト」に“COMMAND.COM”ファイルのビデオ・モードを「グラフィックス」で登録してください。

注意 (1) 「プログラムリスト」にあらかじめ登録されている“コマンドプロンプト”のビデオ・モードは、「テキスト」で登録されています。

(2) 「ファイルリスト」に表示されているファイルを選択してプログラムを起動した場合のビデオ・モードは、「テキスト」で起動されます。

(3) SHIFT+F9キーで起動されるコマンドプロンプトのビデオ・モードは、「テキスト」です。

③ DOSシェルをタスク・スワップ・オンの状態にして起動したコマンドプロンプト上では、ADDDRVコマンドを実行することはできません。実行すると次のようなエラーメッセージが表示されコマンドの実行を中止します。

「DosShell タスク切り替え内のコマンドプロンプトでは実行できません。」

④ 通信の実行中やプリンタに印刷中のタスク・スワップは、行わないでください。タスク・スワップを行うと、処理が中断されるため正しい結果を得られない場合があります。

⑤ 同じアプリケーションプログラムを複数起動しないでください。

⑥ ファイル等の資源を共有するプログラムを複数起動し、タスク・スワップを行うとファイルやシステムが破壊されてしまう恐れがありますのでご注意ください。

(2) アプリケーションプログラムに付属するマウスドライバを使用する場合の注意

DOSシェル上でアプリケーションプログラムをご使用になる場合に、アプリケーションプログラム独自のマウスドライバを使用する場合は次の手順でアプリケーションプログラムを起動してください。

【起動方法】

1．アプリケーションプログラムが使用するマウスドライバをCONFIG.SYSフ

ァイルまたはADDDRVコマンドで使用するデバイスドライバ定義ファイルに記述し、システムに組み込みます。

2. 日本語MS-DOS（Ver 5.0）に付属のMOUSE.COMを起動します。
3. DOSシェルを起動します。
4. DOSシェルを“タスク・スワップ・オン”に設定して、アプリケーションプログラムを起動します。

(3) その他の注意事項

① DOSシェルをタスク・スワップ・オフの状態にして起動したコマンドプロンプト上では、ADDDRVコマンドを実行しデバイスドライバを組み込んだ場合には、“EXIT”コマンドでDOSシェルへ戻る前に、必ずDELDRVコマンドを実行し組み込んだデバイスドライバを取り外してください。

② メモリに常駐するプログラムは、必ずDOSシェルの起動前に組み込んで使用してください。

③ DOSシェルの「プログラムリスト」に登録する際の登録情報の一つである「アプリケーション・ショート・カット・キー」は、CAPSキーおよびカナキーの状態を含めて登録されます。

注意 画面上に表示される「アプリケーション・ショート・カットキー」の登録情報は、登録されたCAPSキーおよびカナキーの状態に関わらず、大文字の英数字となります。

【登録例】

登録情報	アプリケーション・ショート・カット・キー	画面表示
プログラム1	GRPH＋A	GRPH＋A
プログラム2	GRPH＋a	〃
プログラム3	GRPH＋チ（CAPS ON）	〃
プログラム4	GRPH＋チ（CAPS OFF）	〃

④ DOS シェルに SETUP コマンドでアプリケーションプログラムを登録した場合「プログラムリスト」に登録できるタイトルの文字数が最大で半角23文字（全角11文字）のために、タイトルの一部分が切れてしまう場合があります。このような場合は、DOS シェルのメニューから「登録情報」をオープンして、タイトルを修正してください。

⑤ ファイルリストの「ドライブ選択ウィンド」、「ディレクトリツリー選択ウィンド」のカーソルを移動し、ファイル表示を行うドライブやディレクトリを変更してプログラムファイルを起動してもカレントドライブおよびカレントディレクトリは、変更されません。

注意 “COMMAND.COM” を起動したり DOS シェルを終了した場合は、選択されていたドライブおよびディレクトリがカレントとなります。

6．その他の注意事項

その他、MS-DOS 5.0をご使用になる際は次のことにご注意ください。

① 従来の拡張メモリマネージャ（EMM.SYSおよびEMM386.SYS）では、ノーマルモードの場合、ページフレームのアドレスの指定を省略するとB0000Hが使用されましたが、MS-DOS 5.0の拡張メモリマネージャ（EMM.SYSおよびEMM386.EXE）ではC0000Hを使用するよう変更されています。

② MS-DOS 5.0では単文節変換用の辞書ファイル（NECDIC.SYS）は提供されていません。